



© Yasuko Okumura 2023

Happy and Boon Buddy
武蔵野市立桜堤児童館子育て支援事業
ローズカフェ@桜堤児童館

子どものことばを引き出すコツ

奥村 安寿子
Okumura, Yasuko
(広島大学 人間社会科学研究科 日本語教育学プログラム)

2023/9/11 @ 桜堤児童館



このパンフレットは、2023年9月11日（月）武蔵野市桜堤児童館のローズカフェで行われたHappy and Boon Buddy（HBB）による講演会のまとめです。奥村講師のスライドを左ページに、講演の書きおこしをスライドに合わせて右ページに載せました。ことばは少しやさしく書き直したところがあります。主催者であるHBBの許可を得て作成しました。

（2024年2月10日BM子ども相談

室）



- おはようございます。奥村と申します。
- 今日いらっしゃっている皆様は、下は半年から上は4歳ぐらいまでとうかがっています。ことばについて気になる時期かなと思います。
- 私自身は、今広島大学で教員をしています。専門は子どもの教育とか、子どものことばに係ること発達や心理にかかわることを研究しています。
- こどもがどうやったらひらがなを読めるようになるんだろうか、こどものことばをのばすには、幼稚園で何をしたらよいのだろうか、とか幼稚園の先生といっしょに、いろいろやってみたりしています。

今日の話

子どものことばを引き出すコツ

- ◎ 豊かなことばを育む。
- ◎ 豊かなことばを関わりの中で引き出す。

日々の関わりでできることを，言語発達の基礎とロールプレイから考えていきます。

今日の話

p.2

- 半年から3歳ぐらいまでのお子さんは毎日ことばが伸びていっている時期だと思います。わかることが増えてきたり、自分からおしゃべりできることが増えてきている時期かと思います。
- そういったお子さんたちのことばを、豊かに育てていく上で、日々の生活で、どんなことができるのかな、というのをお話していければと思います。

豊かなことばを育む



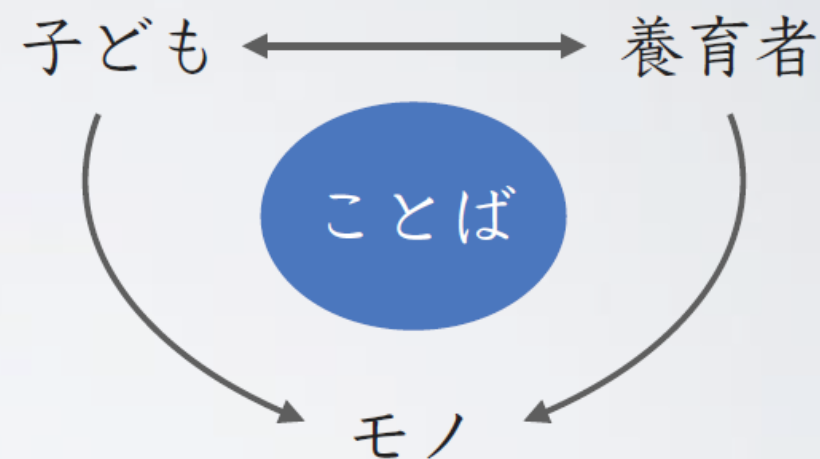
豊かなことばを育む

p.4

- といっても、きょうお話することは特別なことではなくて、日々の生活の中で毎日やっていることではあると思います。
- その毎日やっていることがどういうことで、それがどうやって子どものことばにつながっていくか、そんなことがヒントとしてみなさんに伝えればいいかなと思います。
- では、スライドを見てください。
- ちょうちょがいますね。こんなときお子さんだったら「あっ」とか「ちょうちょ」とか言うかと思います。そんなとき、お子さんにどんなことばをかけましょうか。
- お母さん：「あ、ちょうちょだねえ」「あ、黄色いちょうちょが飛んでるね」

豊かなことばを育む

三項関係と共同注意



- 子どもの豊かな言葉を育む土壌。
- 成立するのは1歳頃から（＝初語の出現時期）

豊かなことばを育む

p.5

- そのときに、何がおこっているか、考えてみます。
- お子さんがちょうちょを見つけました。おかあさんもそれに注目します。そしてその中でいろいろやりとりをします。
- これは何かというと、ちょうちょ、という一つのものに、お子さんとおとなが一緒に注意を向ける、同じものを見て、同じものに注意を向ける、ということです。難しいことばで言うと、「**共同注意**」と言います。
- 今も、お子さんがおもちゃとか、関心を向けているものに保護者の方も一緒に注意を向けていると思います。これは日々の生活の中で普通にやっていることなんですけれども、子どもがことばを育てていくときに非常に重要な現象の一つなんです。

子どものことばを育む

p.5

- で、そのとき、この場には子どもとおとなともの、という三つのものがあって、そこに三角形の関係ができます。これを「三項関係」と呼びます。
- 子どもとおとなとものという三角形の「三項関係」、それから同じものにいっしょに注意を向ける、という「共同注意」、というこの二つのことばを頭においておいていただければと思います。
- この関係性、この現象が、こどものことばを豊かに育む土壌になっています。それをこれからお話します。

豊かなことばを育む

9ヶ月頃までのコミュニケーション

○ 私－あなた



○ 私－モノ



豊かなことばを育む

p. 6

- 「三項関係」が成立するのは1歳半ぐらいと言われています。
- それよりも前には、9か月ごろまでのお子さんは、もちろんおとなと子ども、だっこしてやりとりをしたり、たとえばまだことばにならないおしゃべりですね、「あーあー」と言ったら「あーあー」と返ってくるとか、泣いたらこの人がなぐさめてくれる、とかそういった私とあなたとの関係というのは9か月半ぐらいまでにできています。小さいお子さんは、ものを与えると、ものを調べたり、口に入れたり、いろいろさわったりとかいうことはできるので、私ともの、という1対1の関係というのも9か月ごろまでに十分できます。

豊かなことばを育む

9ヶ月頃までのコミュニケーション

× 私－あなた－モノ

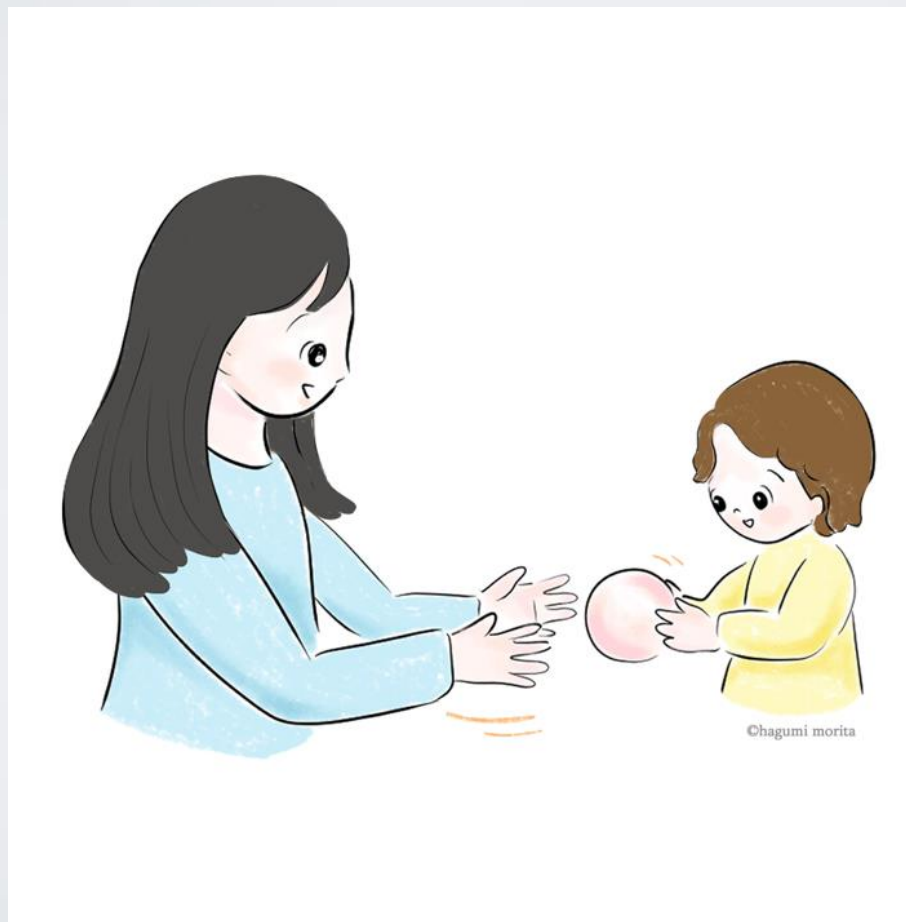


豊かなことばを育む p.7

- ただ、今の三項関係ですね。1歳ぐらいまでのお子さんは、お母さんが何か、「あ、あれ」というと、この指の先のものではなくて、この写真のように、手を見てしまいます。
- 「あれ」と言った（指の）先に何かがあるということは1歳半ぐらいまでは理解が成立しないので、何これ、というふうに手を見てしまうと言われています。
- ですから、この関係性というのは、私とあなたという関係性がしっかりできて、私とものという関係性がしっかりできたうえで、三角形の関係性ができるのは1歳半になってからということになります。

豊かなことばを育む

三項関係と共同注意



あげる・もらう

見せる・隠す

要求する

確認する

意図を伝える

意図を理解する

感情を共有する

...

豊かなことばを育む

p.8

- では、この三項関係と共同注意の中で何ができるか、ひとつのものを子どもとおとなが共有する中で、たとえばあげるもらう、なんていうのができます。
- 少しやってみましょう。同じものに注意を向けて、あげたりもらったりしてみましよう。
- お母さん：「ちょうだい」「ありがとう」
- お母さん：「ちょうだい」、子ども：「いやだ～」
- みせる、かくす、などもおとな・子ども・ものの関係の中で使われています。
- 「ちょうだい」、は要求するですね。「ここに何があるね」「おもちゃがあるね」「ブロックがあるね」はいっしょに「確認」しています。

豊かなことばを育む p.8

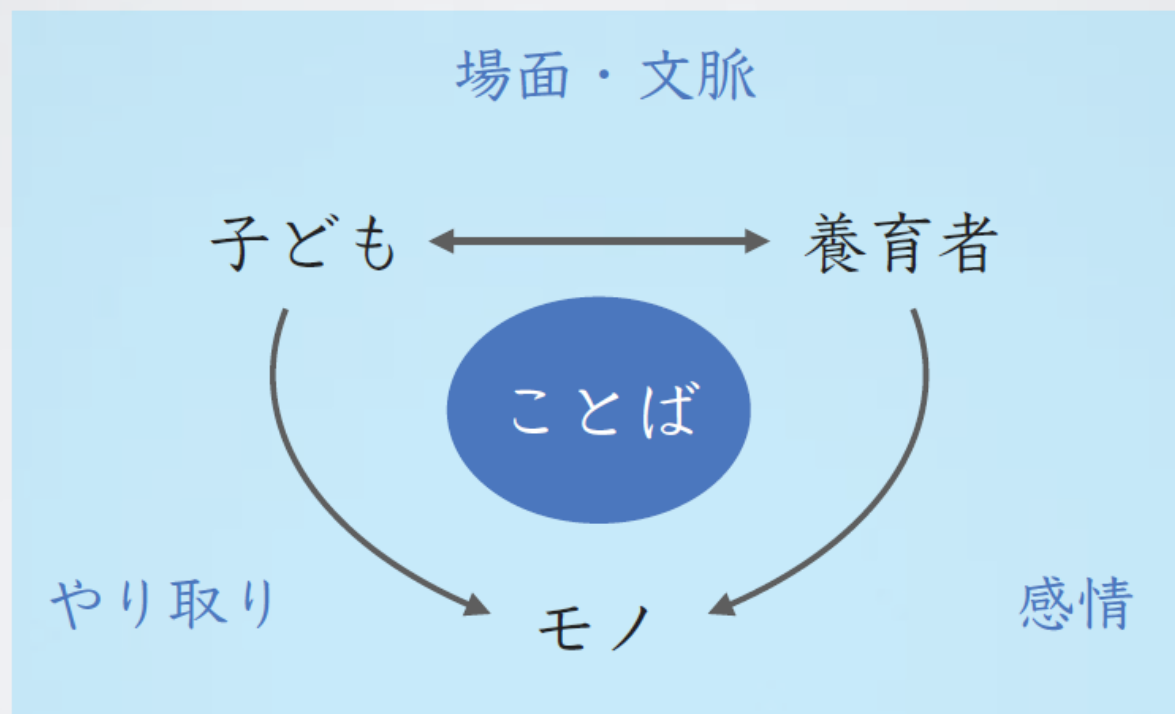
- お子さんがモノを持ってきて、ことばを言えないので何かしてほしい。おとなと子どもとモノを共有するとき、たとえばおもちゃだったら遊んでほしい、かもしれないですし、食べ物の袋だったら開けてほしい、かもしれないですし、いろいろな意図を伝える。
- あとは、意図を理解する、感情を共有する、いろんなことが私（子ども）、あなた（おとな）とモノの中にできていく、ということです。



豊かなことばを育む

三項関係がもたらすもの

要求
関心
意図
感情
...



文化
経験
思い出
感情
...

(名称・動作・知識・性質・出来事)

豊かなことばを育む p.9

- 図にすると、こんな感じです。
- 三角形の関係、そしてモノに注意を一緒に向ける中でことばが育まれていく。



豊かなことばを育む

ロールプレイ1

- 講師：子ども役（1～6歳）
- 参加者：大人（養育者）役

写真のモノについて，子ども役の「あれ何？（または指さし）」から始まるやり取り，会話をする。

豊かなことばを育む p.10

(スクリーンの船を指さしながら)

- お母さん：あれ何？
- お母さん：そうだね、、船だね。
- 「そうだね、大きい船だね。こういった基本的なことに加えて、この船に関して、保護者の方々みなさんが知っていたりとか、乗ったことがあって思い出があったりとか、自分自身が船が好きだとか、きらいだったとか、そういうことがいろいろあると思うんですね。そこでお子さんの気が向くようなら少しこれをネタにやりとりしてみまじょうか。

豊かなことばを育む

ロールプレイ1



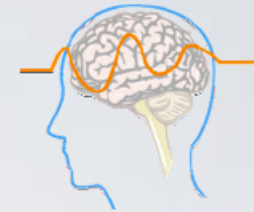
豊かなことばを育む p.11

(スライドをいっしょに見ながら)

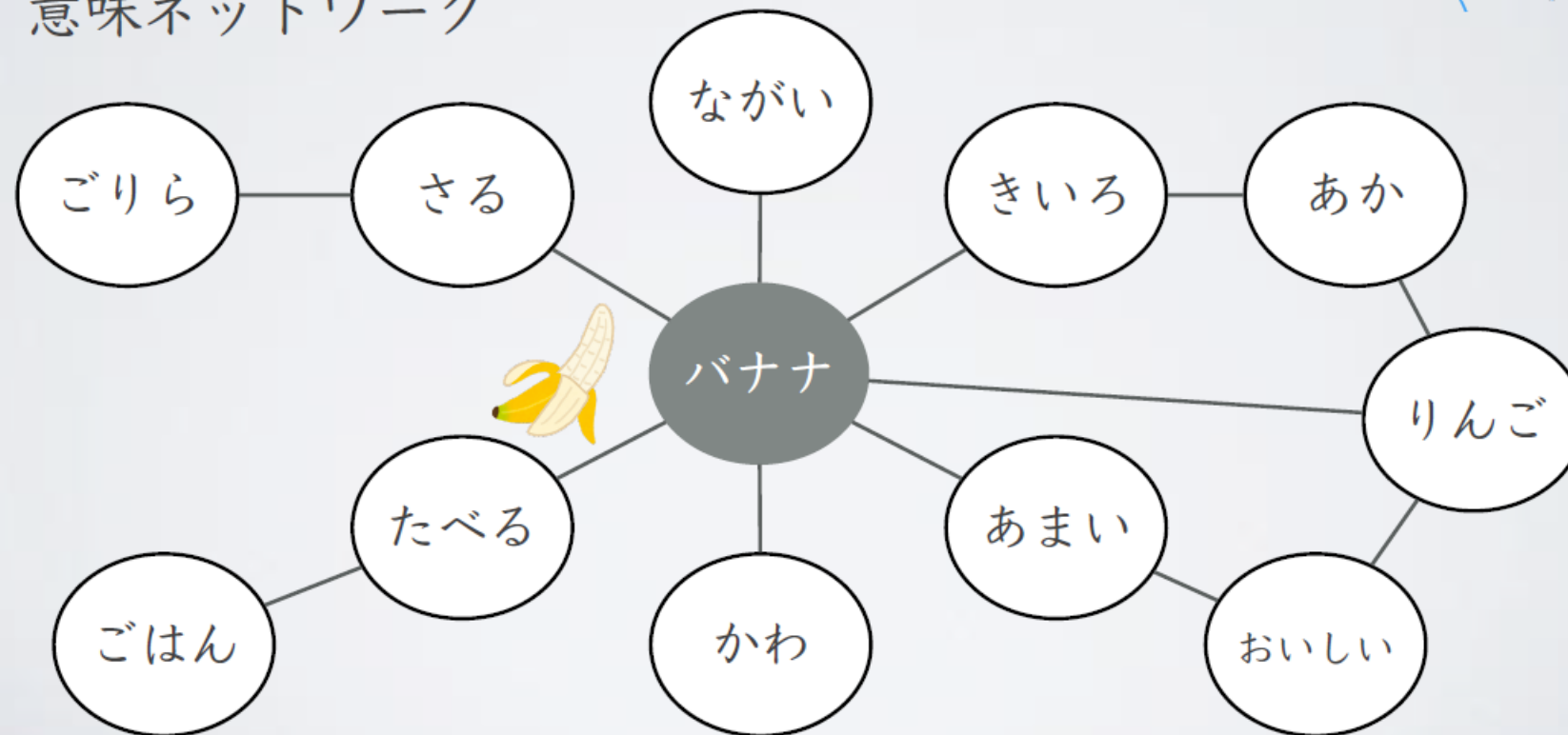
- お母さん：ぐるって回るのだよ
- お母さん：乗ったとき、こわかったよね
- 今、「ぐるぐるってまわるのだよ」「乗ったときこわかったよね」など聞こえてきました。そんな感じで、モノの事実もそうですし、モノに係る感情とか思い出、なんていうのも、この関係性の中でお子さんに伝わっていきます。

豊かなことばを引き出す

豊かなことば：どうなっている？



意味ネットワーク



豊かなことばを引き出す p.12

- こういった日々のやりとりですね、ほんとにさりげないやりとりだと思うんですが、私とあなたとモノの間で、繰り返されるやりとりの中で、ことばが育まれていく。
- では次に、こうやって育まれたことばをどうやって引き出していくか、話していきたいと思います。
- こうやって育まれたひとつひとつのことばは、頭の中ではばらばらに入っているわけではなくて、このように、バナナだったら「甘いよね」「皮向くね」「食べるもの」「おさるさんが食べるよね」など、ほかのいろいろなものと結びついて覚えています。

豊かなことばを引き出す

ことばが出てきやすいのはどっち？



豊かなことばを引き出す

p.13

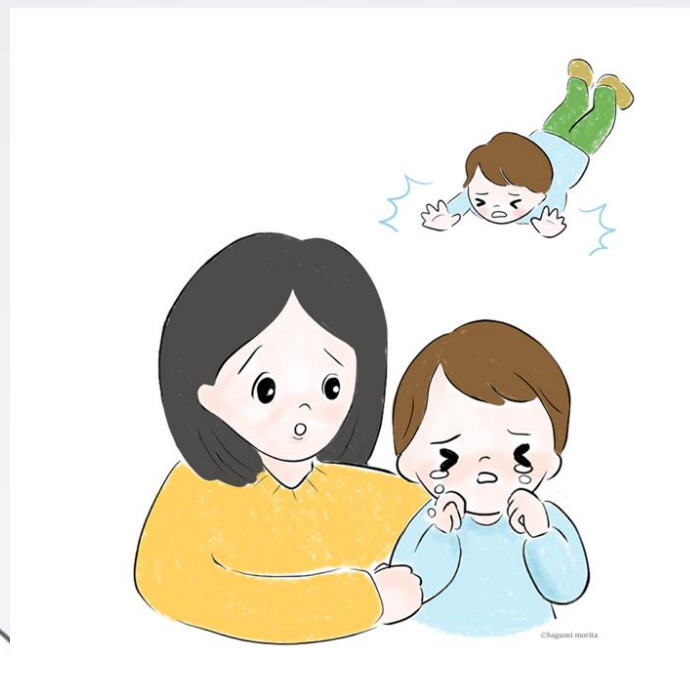
- このことばをどうやって引き出すか、ですね。
- 灰色のふきだしのやりとりと、下の白いふきだしのやりとりをくらべてみましょう。
- 灰色のほうは「どっちで遊ぶ？」「何して遊ぶ？」、白いほうは「車で遊ぼうっか？」「電車で遊ぼうっか？」
「飛行機で遊ぼうっか」
- つまり、いわゆるオープンクウェスションですね。子どものほうが答えを頭の中から引きだしてくるです聞き方です。
- 下のほうは、保護者の方が「車、飛行機」ということばを出してくれている、だから子どもはそのことばがわかれば、思い出せばやりとりが続けられます。
- このオープンクウェスションのほうは、少しハードルが高いです。白紙の状態から、該当することばを引っ張ってこななければいけない、というところがある。認知的には記憶の負荷が高いということになります。これに対して、「くるま」「ひこうき」というおかあさんのことばが、子どもがことばを思い出すきっかけになるので、ことばが引き出しやすい状態、といえます

豊かなことばを引き出す

ことばが出てきやすいのはどっち？

どうしたの？

痛かった？
びっくりした？



感情を言語化する

いたかったー

豊かなことばを引き出す p.14

- もう一つ例をみてみましょう。
- ころんだときの状況です。
- 「どうしたの？」もちろん、「どうしたの」は大事なのですが、子どもにとっては、「どうしたのか」を言うためのことばを頭の中から引っ張り出してこなければいけない。ここで、たとえば、「どうしたの？いたかった？びっくりした？」というようなことばがかけがあると、こどもは「痛かった、というやつなんだ」とか「びっくりした」とか、ここでお子さんへのことばがかけが、感情をことばにする手助けにつながっていきます。

豊かなことばを引き出す

ロールプレイ2

- 講師：子ども役（1～6歳）
- 参加者：大人（養育者）役

朝食の場面で、子ども役の「あれにとって（または指さし）」から始まるやり取り，会話をする。

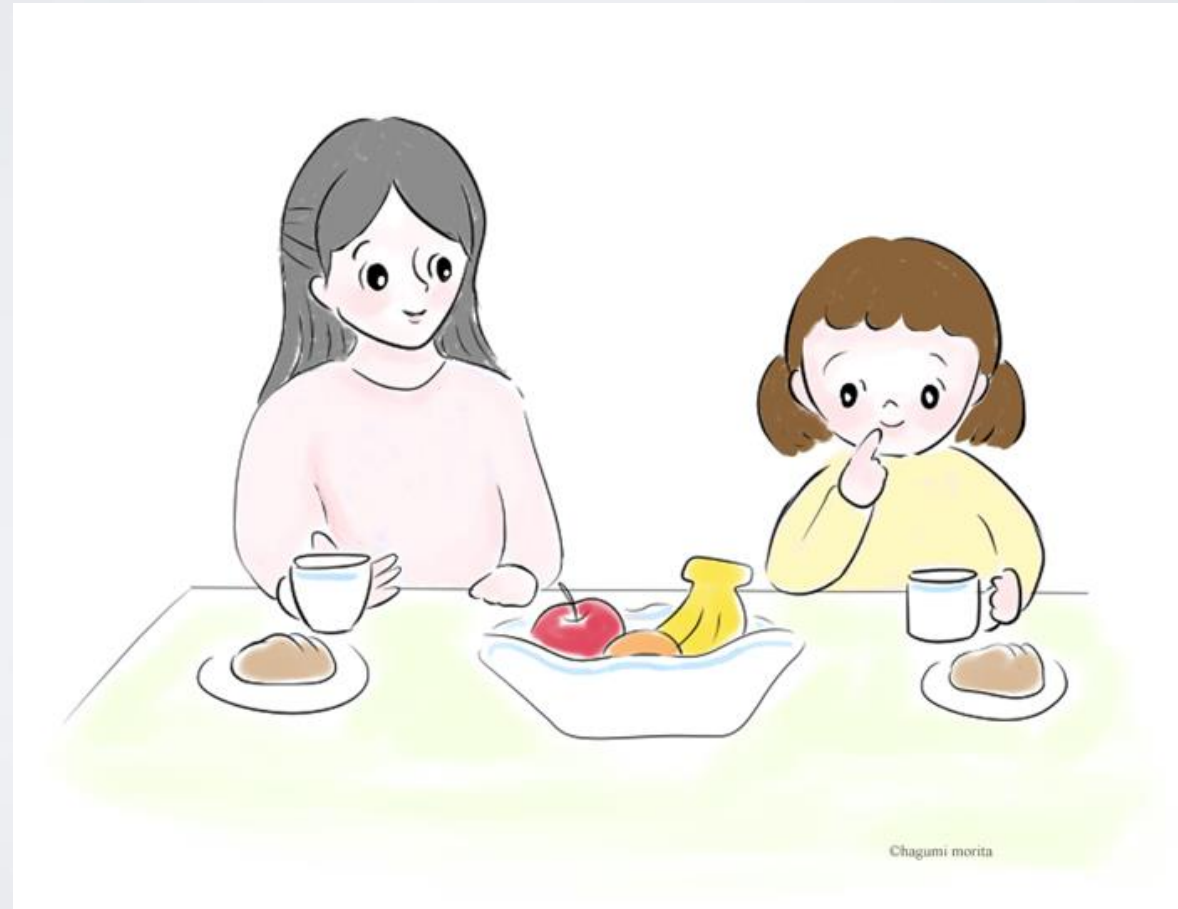
豊かなことばを引き出す p.15

- お子さんの中でしっかり育っていることばをどういうことばがけなら、出てきやすいか、ロールプレイをしてみましょう。



豊かなことばを引き出す

ロールプレイ2



豊かなことばを引き出す p.16

- お子さんが指さしながら「あれとって」と言っただけです。
 - お母さん：はい、どうぞ
- ……
- そうですね。自然なことばがけだと思います。ここでちょっと、一つ加えてみます。
- ……
- お子さん：あれとって。
 - お母さん：バナナがいいの、オレンジがいいの、それともリンゴがいいの。
 - と聞いていい一白り
聞いとてお関係部皮が豊かさとでべこかにきるうに「ノすそ」バとれそまなそうもとなを半分感じ大にで、つっきすたらお子」てう母さといとさんかくんだ「こがおがつ皮とお子そたむばされらくで、さんを？　日を持れば々々のナとらる、
- 35

豊かなことばを引き出す

やり取り・会話の例

子ども「あれとって」 養育者「はい」

子ども「あれとって」

養育者「バナナが欲しいの？それともりんご？」

子ども「バナナ」

養育者「1本全部食べる？それとも半分？（切る動作）」

子ども「半分」

養育者「じゃあ半分に切るよ。皮はむく？」

豊かなことばを引き出す p.17

- 普段、ずっとやりとりしていると、お子さんが「あれとって」それで「はい、どうぞ」で成立するやりとりが多くて、それは保護者の方と、お子さんの関係性がしっかりしている、というあらわれでもあるんですね。ただ、そこにことばということを意識していくと、例えばこんな感じになります。
- 「あれとって」「バナナがほしいの？オレンジがほしいの？」、それで子どもが「バナナ」と言ったら、大きいお子さんなら「全部食べる？半分？」とか、「じゃあ半分に切るよ、皮むく？」

豊かなことばを引き出す

やり取り・会話の例

養育者「はやくしなさい！」

→ 「時計の長い針が、12になったら家を出るよ」

養育者「それダメ！」

→ 「○○はしません。代わりに、□□して」

養育者「静かにしなさい！」

→ 「ありさんみたいな、小さい声でお話ししよう」

豊かなことばを引き出す p.18

- 忙しい生活の中で毎日毎日、毎回毎回そんなやりとりはできないかもしれません。が、折に触れてこんなことをやっていくと子どもが持っていることばを引き出したやりとりというのができます。
- おうちを早く出なければいけません、そんなとき「早くしなさい」とどうしても言ってしまうんだと思います。少し大きいお子さんで時計の数字とか意味がわかるようになっているお子さんだったら、「長い針が12になったらおうち出るよ。」とか、シール貼って「長い針がシールのところに来たらお家出るよ」とか、言えます。

まとめ

子どものことばを引き出すコツ

- ◎ 豊かなことばを育む。

- ➡ 私－あなた－モノの関係を通じて育てる。

- ◎ 豊かなことばを関わりの中で引き出す。

- ➡ 日々の会話の中に、ことばをちりばめる。

まとめ

p.19

- 子どものことばを引き出すコツということでお話しました。まとめると
- 豊かなことばを育むには「私ーあなたーモノ」の関係を意識して育てることが大切です。
- 豊かなことばは、関わりの中で引き出すことができます。そのためには日々の会話の中に、ことばをちりばめてみましょう。

おわりに

子どものことばを引き出すコツ

- ◎ 豊かなことばを育む。
- ◎ 豊かなことばを関わりの中で引き出す。

➡ 養育者はどんな「ことば」を使えば良い？

標準語, 方言, 母語, 日本語（現地語）...

おわりに p.20

- では、最後に、私たちはどんなことばを使えばよいでしょうか。
- 日本語には、標準語、方言がありますし、日本語が母語でない方だったら、ご自身の母語がいいか、日本語がいいかなど、迷うかもしれません。

おわりに

どんな「ことば」を使えば良いか？

養育者と子どもの双方が、

- 自信を持って使える「ことば」
- 安心して使える「ことば」
- 豊かな経験，思い出を伴う「ことば」
- 多くの内容，メッセージを伝えられる「ことば」
- 気持ちや感情をしっかりと伝えられる「ことば」

おわりにーどんなことばを使えば良いか p.21

- ここで大切なことは、おとなも、こどもも、自信をもって、安心して使えることばであるということです。そのことばは、豊かな経験、思い出を伴っていて、多くの内容やメッセージを伝えることができますし、気持ちや感情もしっかり伝えることができます。

おわりに

どんな「ことば」を使えば良いか？

- 一番 **たくさん** 話せるのは () 語／弁
- 一番 **楽しく** 話せるのは () 語／弁
- 自分の **気持ちを** 話せるのは () 語／弁
- 家族と **話したい**のは () 語／弁

家庭内にたくさんの「ことば」がある場合は、みんなです話合ってみましょう。

おわりにーどんなことばを使えば良いか p.22

- みなさんにとって、たくさん、楽しく、気持ちを話せるのは、
どんなことばで、家族と話したいのはどんなことばでしょうか。
- みなさんが、ご家族も一緒に考えてみてください。

- 以上でお話を終わります。



このパンフレットを他所で共有したい場合は、事前にご連絡ください。

y-okumura@hiroshima-u.ac.jp

制作 BMCN BM子ども相談室

発行 2024年2月10日

住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1丁目4-13 鈴木道場方

バイリンガル・マルチリンガル子どもネット (BMCN)

URL : <https://www.bmcn-net.com/>

このパンフレットは講演会主催者であるHappy and Boon Buddy (HBB) 様の許可をいただいて作成しました。

イラスト：森田はぐみ